

平成28年度行政評価シート【個表】

平成 28 年 6 月 28 日

評価対象事業	評価者	市民健康課長	石黒 知美
健福-34 産科診療所支援事業	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務	主管課	市民健康課
		関連課	
総合計画上の位置付け	分野	健康福祉	施策の方針
			市民の健康と安心づくりの推進

1 事業の目的

対象	市民等
意図	市民一人ひとりの保健衛生知識の啓発を図るとともに、補助団体等の活動促進のため。
効果	市民の健康衛生水準を向上

2 平成27年度に実施した事業の概要

産科医師等に分娩手当を支給している医療機関に対し補助金を交付した。出産環境を改善するために、鎌倉市医師会立産科診療所の運営事業を支援した。
財政支援をすることから、鎌倉市医師会立産科診療所の運営内容について透明性を確保するため、鎌倉市医師会が運営する市民、学識経験者を交えた運営協議会の開催について協力・支援した。

3 事業費等基礎データ

データ区分	26年度決算	27年度決算	データ区分	28年度当初予算	備 考
人 口	177,464人	177,243人	人 口	176,869人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
世 帯 数	80,368世帯	80,676世帯	世 帯 数	80,928世帯	
事業の対象者数			事業の対象者数		
運営資源状況					
決算値(千円)	104,264	82,103	当初予算(千円)	93,946	
国県支出金	730	700	国県支出金	700	
地方債	0	0	地方債	0	
その他	0	0	その他	0	
一般財源	103,534	81,403	一般財源	93,246	
人員配置数	0.2	0.2	人員配置数	0.4	
人件費(千円)	1,515	1,613	人件費(千円)	3,152	
事業経費運営					
総事業費(千円)	105,779	83,716	総事業費(千円)	97,098	
市民1人当りの経費(円)	596	472	市民1人当りの経費(円)	549	
対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1. 減少している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	2. 廃止・休止による影響は小さいがある
	今後も市が実施すべき事業か	2. 社会状況の変化や市民ニーズの減少により、市で実施する必要性は低い
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	○. 負担導入済 ○-2. 適正な受益者負担を導入している
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	△. 協働未実施 協働実施済の場合のパートナー
事業内容の方向性	☐ a: 事業内容を見直す ☒ b: 事業内容は現状通りとする ☐ c: 事業を休止又は廃止する ☐ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する	見直しの種類 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 事業へ統合
予算規模の方向性	☐ A: 予算規模を拡大する ☒ B: 予算規模は現状維持とする ☐ C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 分娩取扱件数の減少に歯止めがかけられるよう、今後も鎌倉市医師会と協議を続ける。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	鎌倉地域で唯一の分娩施設であり、市内で安心して子どもを産み育てる環境整備としての大きな役割を担っている。経営改善のため、妊産婦健診、乳幼児健診、産後ケアや各種教室等の開催により事業を拡大し、歳入の増額を見込んでいる。しかし、補助金の大幅な経費削減には至っていない。将来的な展望や今後の役割について検討を行う必要がある。平成28年度に新たな産院が開設するため、その影響などを注視し、今後のあり方について検討していく。	

平成27年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	平成25年9月以降市内に新しく産院が開院され、分娩取扱件数が大幅に減少したことに伴い、設立当初に見込んだ収入に達しないため、補助金額が増加している。		
課題解決のために行った平成27年度の取組	助産師等による母乳外来の充実(ティアラ以外で出産した場合も対応)や産後ケア(空ベットの活用等)、各種教室の開催、予防接種の実施(インフルエンザや風しん等)、婦人科検診等を実施し、経営改善及び利用者の一部増加に繋げた。	☐ 解決 ☒ 一部解決 ☐ 未解決	
未解決の課題、新たな課題とその理由	経費の削減や新たな事業の実施等、さまざまな経営努力を行っているが、分娩取扱件数の減少に伴う補助金額の増加は未解決となっている。平成28年度に新たな産院の開設が予定されているため、分娩取扱件数がさらに減少する恐れがある。		

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									
比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									
比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方									

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	取扱分娩件数					単位	件	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
取扱分娩件数が市民ニーズ及び補助額の増減に直結するため。	目標値	265	210	210	200	180		160		
	実績値	219	217							
	達成率	82.6%	103.3%							
指標の内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
	目標値									
	実績値									
	達成率									
指標の内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
	目標値									
	実績値									
	達成率									
当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方										

● 事業に関する特記事項

☐ 第3期基本計画前期実施計画重点事業	☒ 19節で予算措置している補助金が含まれる事業
--	--